

## 第 2 回能美市地域公共交通協議会 会議録

日時 令和 4 年 6 月 2 9 日 (金) 1 0 時 0 0 分 ~ 1 1 時 3 0 分

会場 能美市辰口福祉会館 多目的ホール

参加者：

番号	所属	所属役職	氏名	備考
1	能美市	副市長	番匠 啓介	会長
2	公立小松大学	教授	高山 純一	副会長
3	国土交通省北陸信越運輸局 石川運輸支局	首席運輸企画専門官	打越 利子	
4	公共交通有識者		中辻 純一	
5	石川県企画振興部 新幹線・交通対策監室	交通政策課 主幹	島内 理名	代理
6	石川県南加賀土木総合事務所	維持管理課長	曾宇谷 憲一	
7	能美警察署	交通課長	窪 美希	欠席
8	北鉄白山バス(株)	取締役社長	松田 隆一	代理
9	北鉄加賀バス(株)	取締役社長	新谷 良二	代理
10	西日本旅客鉄道(株)金沢支社	地域共生室企画課 交通企画室長	鹿野 剛史	代理
11	一般社団法人 石川県タクシー協会	専務	宮崎 芳信	
12	能美市町会連合会	会計理事	東 俊洋	監事
13	能美市老人クラブ連合会	会長	村上 忠志	
14	能美市婦人団体協議会	会長	谷田 好子	
15	能美市身体障害者福祉協議会	会長	大村 美代子	
16	北陸先端科学技術大学院大学	総務課長	山本 隆裕	
17	能美市企画振興部	部長	中出 真弓	監事
18	能美市土木部	次長兼土木課長	吉田 和司	
19	能美市健康福祉部	いきいき共生課長	宮下 ゆり	
20	能美市企画振興部地域振興課	課長	南 茂樹	事務局
21	能美市企画振興部地域振興課	課長補佐	前川 正樹	事務局
22	能美市企画振興部地域振興課	主事	北野 利晃	事務局
23	能美市企画振興部地域振興課	主事	金谷 奈保	事務局
24	(株)計画情報研究所	主任研究員	四藤 一成	事務局
25	(株)計画情報研究所	研究員	北原 豪	事務局
26	(株)計画情報研究所	研究員	守山 瑞希	事務局
27	(株)計画情報研究所	研究員	中村 誠	事務局

## 1. 開会

## 2. あいさつ

会長 あいさつ

※出席委員 14名(1名欠席) 委員代理 4名 事務局 8名(内株計画情報研究所 4名)

合計 26名

## 3. 報告

(1) 能美市地域公共交通協議会委員の交代 (資料 1)

(2) 令和 4 年度地域公共交通確保維持改善事業補助金の交付決定 (資料 2)

(3) 令和 4 年度調査業務委託事業者の選定結果 (資料 3)

[事務局より資料に沿って説明]

[委員]

アンケートについて、実際に公共交通を使っている人の回答は担保されているのか。

公共交通を全く使わない人も対象になるのか。

[事務局]

アンケートの対象者は無作為抽出を予定している。公共交通を利用していない人も含まれる。

[委員]

無作為にすると意味がないのでは。出口調査を行い、実際に公共交通を使っている方の意見を聞いたほうが効果的であると公共交通のアンケートでは言われている。運転手において配布し、提出は郵便も可とする方法や、一人ひとりにヒアリングしていただくのが望ましいと思う。利用者の困り事を改善すれば利用率は上がると一般的に言われているため、無作為でなく、なるべく使っている人の意見を反映したほうがよいと思う。

[事務局(計画情報研究所)]

利用者へのアンケートも別途行う予定である。コロナ禍のためヒアリングは難しいが、バス車内でのアンケート配布も行いたいと考えている。

[委員]

資料に記載されている利用者数は乗車数と降車数の合計か。降車したバス停で再度乗車するのが一般的な乗り方なので、乗車数と降車数にそれほど差は出ない。その差が大きいところに課題があると言えそうなので、その分析をされてはいかがか。

また、よく 1 時間くらい周回時間がかかる便は乗車時間が長くなると言われるが、必ずしもそうではなく、利用頻度の高い OD が長い距離になるのが課題である。乗車から降車までの所要時間の平均がどれくらいになっているかを分析し、(輪型のルート) 8 の字にしたときにどのくらい改善されるかを検討していただきたい。一周で 60 分かかるルートで行きは短い OD で帰りが長かったりすると、帰りは利用しない人が出てくる。その辺りを分析していただきたい。

[事務局(計画情報研究所)]

乗降データについては乗車数と降車数の合計となっている。乗車数と降車数の差については、朝は車で送ってもらった人が帰りはのみバスを利用するパターンやその逆もあるかと思うので、乗りと降りの差は「のみバスGO！」(バスロケーションシステム)で取得しているので可能な限り確認し、ご報告する。

ODについては、三角ODのデータとなっている。例えば根上地区は能美根上駅やショッピングタウンを中心にしたODとなっているが、バスの運行に伴うODなので、そもそもの需要がないことはあると思う。これに対し寺井地区は粟生から亀齢荘やクアハウスN9などへ伸びているので、長い距離の利用があると想定される。

[会長]

事務局は現在のご指摘を踏まえて引き続き検討を行ってください。

#### 4. 議事

##### (1) 議案第7号 能美市地域公共交通計画策定業務アンケート調査について

[事務局より資料に沿って説明]

[委員]

前回のアンケート調査と変わっている点はあるか、あるとすればどのあたりを変えたのか教えていただきたい。また、アンケートの選択肢が非常に多いが、もう少し数を絞りその他を自由記述にしてはどうか。

[事務局(計画情報研究所)]

前回との違いについて、前は細かくお伺いしたため10ページほどになっていたが、今回はよりわかりやすく、回答しやすいアンケートを意識し、8ページほどにした。具体的には移動の目的と手段を問う設問を、前は目的ごとに分けて尋ねていたが、細かすぎると回答率が下がる懸念があるので、割愛した。実際に「細かすぎるのでは」といったご意見もあり、今回は聴取しないこととした。また、その他の施設については施設名を直接ご記入いただく旨の記載をしている。現在は表現がわかりにくいため改善する。

[委員]

選択肢と設問を別紙で見比べながら回答する方法について、高齢者にはハードルが高い作業だと思うが、前回の回答率や課題を分析したうえでの仕様とのことで理解した。ただ、アンケート用紙の3枚目にこの工程が入ることが気になった。

また、単語の表現が統一されていない箇所が見受けられるので統一させてほしい。

最後に、回答率はどのくらいを見込んでいるのか、私どもも地域づくりのアンケートを無作為抽出にて1,500名を対象に行った際、回答率は40%程度だった。どのくらいの回答率なら分析に足るデータとなるのか、前回の結果も踏まえて教えていただきたい。

[事務局(計画情報研究所)]

前回の回答率について、65歳以上の方からは50%であった。ただ、委員ご懸念のような、細かい設問全てに回答をいただけていたかどうかは、今はデータがございません。

アンケート実施について、全てにご回答いただきたい上、正確に記述いただけないと地点の特定ができない。正式名称でなく省略して記入されると、せっかく回答していただいても使えないデータになってしまう。これらをクリアするアンケートにしようとするとしレンマが生じ、なるべく選択肢として選んでいただく方が回答者の負担も減り、データもより活用できるが、選択肢を並べすぎると選ぶのに時間がかかり負担になってしまう。前は病院の選択肢として病院を3か所のみ用意していたが、実際は診療所に行かれる方も多いため、その移動の実態を把握するために、今回は選択肢を多く設けた。選択肢にない診療所もあると思うが、ある程度絞って記載し、それ以外は直接記述いただきたいと思っている。市の健康福祉部においてどのようなアンケートを行っているか、よければ参考に共有いただけるとありがたい。

[会長]

アンケートは無作為抽出で行うとのことだが、これは資料4のスケジュールにある「地域公共交通計画」に記載のあるアンケートで、先ほど委員から指摘のあった、公共交通の利用者に限定した調査は「コミュニティバス再編」にあるニーズ調査で間違いないか。

[事務局]

ニーズ調査についてはバスで訪れる人が多い施設で聞き取り調査を行いたいと思っている。その施設の利用者にはバス以外で来ている人もいるが、その交通手段についても調査する予定である。

[委員]

アンケートの対象者に高校生300人とあるが、高校生の移動手段として親の送り迎えもあるため、高校生の親も高校生と一緒に回答できるような仕組みにするとよいと思う。働いている親の悩みとして子の送迎があるので、そのことも汲み取るようにしてほしい。

また、このアンケートの結果によりバスの運行が変わってくると思うが、高校生だけでなく、これから進学を控える中学生や小学生が行きたい学校に通えるような、希望を持てる運行になることを願っている。通学が難しいために引っ越す方もいると聞いており、市外への人の流出を防ぐためにもよろしく願いたい。

[事務局(計画情報研究所)]

前回のアンケートで保護者用の設問を設け、通学費用や送迎頻度、負担の程度、送迎の理由などをお聞きした。3年ほど前のデータなので引き続き活用したい。

小松市の路線バスの利用者はほとんど能美市の方だと聞いたことがある。小松高校や駅周辺の高校に通う生徒で小松市内の子はバスを使わずに自転車で通っている。路線バスを維持していくことと、小松駅への新しいアクセス手段も必要かもしれないと思っている。

将来の移動手段の希望について、現在聴取する項目を設けていないが、自由記述の設問を用意しているので、そちらに記述していただきたいと思う。

[委員]

問8、9について、問8で「のみバスを利用していない」という選択肢があり、7～8割の方はここに当たると思う。そうすると問9はのみバスを利用していない人は答えようがない。しかし、これは重要な設問で、2年前に大幅なのみバスの再編を行い、その評価・影響を確認

するためのものであると理解している。のみバスを利用したことがある人のみに答えてもらわないといけないので、冒頭にのみバスを利用した人は答えないようにという記載が必要だと思う。

[事務局]

問8については、のみバスを利用していない人は次の設問へ進む工夫をしたいと思う。

[委員]

自由記述欄があるとよいと思う。最後に自由な意見を書く欄があると、そこに一番本音が出てくる傾向があるので、そのような設問があってもいいかと思う。

[事務局]

自由記述欄も検討する。

[委員]

問6について、記入の仕方が難しいと思う。目的地を複数書かせる意図を教えてください。

[事務局(計画情報研究所)]

通勤・通学の際はほとんど同じ経路だと思うが、帰りは用事があり鉄道を使う等、移動手段を変えることがあると想定されるが、基本的には決まったルートを書いていただきたい。それと別に小松や金沢に行く等、趣味や娯楽での移動の際に公共交通を利用するケースも想定される。日ごろ車を使っている方が多いと思うが、そういった方が公共交通を使う状況を把握したいという意図等により、複数の行動パターンを書いていただくようにしている。

[委員]

公共交通は高齢者の足としての側面が強いため、独居老人等へバスがどうなれば利用しやすいかを尋ねる設問を設けるとよいと思う。また、回答者への特典のようなものも検討してはどうか。

[事務局(計画情報研究所)]

家族構成や年齢をアンケート中で尋ねているので、ご指摘の対象者の回答について抽出することは可能です。

回収率について、必要な回収枚数の回収を想定しているが、アンケート回答者への特典については事務局で検討する。

[会長]

アンケート調査について、たくさんのご意見をいただいたので、これも踏まえて事務局において最終的なアンケート様式を決定します。

(2) 議案第 8 号 デマンド交通検討部会について

[事務局より資料に沿って説明]

[会長]

全国的に公共交通の維持・確保に取り組まれている日野自動車と金沢市でデマンド交通の取組を始める株式会社アイシンにオブザーバーとしてこの部会に入ってもらおう案となっている。

【質問・意見なし】

・デマンド交通検討部会について 原案のとおり承認を得る

5. その他

(1) 今後のスケジュールについて (資料 4)

(2) 市内公共交通の利用状況について

[事務局より資料に沿って一括して説明]

【質問・意見なし】

以上